

永井恒司先生を偲ぶ会 メッセージ原稿（山下）

2025 年 10 月 4 日

本日は先生を偲ぶ会で、この様な大役を仰せつかり、どんな話をしているのか、所掌緊張しております。心から感謝しております。先生への感謝と敬意を込めまして、ささやかではありますが、言葉を捧げたいと思います。

先生が薬剤学会を創設された 1985 年は、ちょうど僕が摂南大学に助手として赴任し、研究者としての第一歩をスタートさせた年でした。当時はまだほんとに駆け出しで、先生はまさに雲の上の存在。まさか後に先生と親しくお話しできるようになるとは、当時は夢にも思っておりませんでした。

それが、薬剤学会の活動を通じて、それから、僕が先生と同じミシガン大学の薬学部留学したこともあって、この写真にありますように、いつも温かく接していただきました。本当にありがとうございました。

特に、僕が薬剤学会の副会長・会長を務めていた頃には、学会運営についてご相談するという名目で、先生のご自宅に何度もお邪魔いたしました。とはいえ、相談はそこそこにして、先生のご自宅にあった美味しいお酒をご馳走になるのが、何よりの楽しみでした。

中でも、先生が毎年購入されていたパスツール研究所ゆかりのワイン --- 先生は「ガメ」と呼ばれていましたが --- あれが本当に美味しくて。よく一緒にお邪魔してた今井先生、尾関先生、楠原先生らと一緒に、あっという間に何本も飲み干してしまいました。申し訳ありませんでした。また奥様にはいいつも大変ご迷惑をおかけしていたと思いますが、そんなこともあまり気にせず、何度も何度もお邪魔してしまいました。僕にとっては、本当に楽しくて、かけがえのない貴重な時間でした。

また、2016 年 7 月 7 日には、永井記念薬学国際交流財団の 30 周年記念式典として、シンポジウムと祝賀パーティーが、まさにこの帝国ホテルで開催されました。僕は光栄にもその実行委員長を務めさせていただきましたが、この写真の様に、国内外から

多くの方々が参加され、先生を尊敬し、また慕っておられる方が世界中にたくさんいらっしゃることを、改めて実感いたしました。

そのシンポジウムのタイトルは、杉山先生らとも相談して決めさせていただいたのですが「過去から未来へ続く絆、Link to the past and bridge to the future」と言うものでした。

僕を含め、日本の薬剤学研究者にとって、薬剤学会は研究成果を発表する場であるとともに、多くの仲間と出会うことができる、まさに自分にとっての大切な居場所です。永井先生は、薬剤学会のみならず、シクロデキストリン学会、アジア薬科学連合などの学会を創設されることで、次の世代の研究者に「それぞれの活動の場と仲間との出会いの機会」を与えてくださいました。まさに日本やアジアの薬学、特に薬剤学の未来への懸け橋、絆を築いていただいたものと思います。

薬剤学会は、今では楠原先生が会長として学会を牽引され、年会には毎年 1,000 人を超える研究者が参加しています。僕も毎年参加していますが、次の世代、さらにその次の世代の研究者がいきいきと活躍されている姿を見るたびに、本当に嬉しく思っています。

永井先生、先生が築かれた未来への絆は、確かに綿々と受け継がれています。どうぞご安心ください。僕も歳を重ねましたので、あとどれくらいその絆を見守っていけるかは分かりませんが、時が来したら、必ず先生にご報告に伺います。その時にはまた、先生と美味しいワインを飲みながら、いろんなお話しをできることを心から楽しみにしております。

永井先生、これまで本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

どうかごゆっくりお休みください。

山下伸二